

2013年11月1日発行

日本国際文化学会事務局

753-8502

山口県山口市桜島3-2-1

山口県立大学

国際文化学部事務室内

Tel/Fax:083-928-3423

email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES

日本国際文化学会ニューズレター臨時号

<http://www.jsics.org/>

## 第13回全国大会 山口県立大学で開催

2014年7月5日(土)、6日(日)

### 『文化を「しあわせる」-地と知を織り成す拠点としての大学(仮)』

大会実行委員長 鈴木隆泰 (山口県立大学大学院国際文化学研究科長)

会員のみなさま、こんにちは。このたびは2014年日本国際文化学会第13回全国大会を、「西の京 山口」で開催させていただき運びとなりました。

まずは、先の第12回大会において「京都で国際文化学を考える」と題した、文化の色彩あふれる素晴らしい企画をされた佐々木英昭実行委員長をはじめ、龍谷大学関係各位に心から敬意を表させていただきます。続く本大会において、古くは中世において京都が長い戦乱下にあったとき、大内氏が数多くの文化人を保護し「西の京」として栄えたという山口にみなさまをお迎えできることを、大変光栄に思っております。

山口県立大学は全国82の公立大学のなかであって、文部科学省の定める「地域における高等教育機会の提供と、地域社会での知的・文化的拠点として中心的役割」を担い、1941年の創立以来「地域における社会・経済・文化への貢献」を行って参りました。2012年には文部科学省の「グローバル人材育成推進事業タイプB(特色型)」の、また2013年には「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受け、地域と世界をつなぐインターローカル人材育成や、学生と社会人がともに学ぶ共生研究や共生教育を始動しました。

これらをふまえ、人と自然と文化が会い、グローバルとローカル、地と知が交差する場において紡ぎだされる新たな視点を探求することをテーマに、本大会を国際文化学のこれからを考える機会にしたいと願っております。大会テーマの「しあわせる(仕合わせる)」は、複数の繊維をよりあわせて(仕合わせ)一本の糸へと紡ぎ上げることを原意としています。そして山口では方言として、「幸いです、幸甚です」の意味で「しあわせます(仕合わせます、幸せます)」を現在でも使っています。異なる「もの」「文化」「人」が仕合わせられるとき、はじめて本当の幸せが生まれるのだと、わたしたちは信じているのです。また、シンポジウム『ここから始まる私の地球-インターローカル人材が拓く未来』(仮題)を企画し、地球を教科書として学ぶ思想や姿勢について意見交換を行い、文化をつむぎ、つなぎ、てわたすための具体的な手法についても考えてみたいと思っています。さらには、学会で連続テーマを掲げ、国際文化学の教育や研究について問うフォーラムでは、『文化は地域や世界に希望をもたらすか?-文化創成コーディネーターの可能性と教育カリキュラム』(仮)と題して、学生さんたちにも登壇いただき、学びの成果について発表していただく予定です。

新キャンパス工事中のため、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、ぜひこの機会に山口にお出ましいただければ幸いです。浅学非才にして若輩の身でありながら、大会実行委員長という大任を拝命し、恐悦しつつも大会を成功させるために精進してまいる所存です。是非ともみなさまのご指導、ご支援、ご協力、ご助言等を頂戴できます様、よろしく願い申し上げます。

「おいでませ、山口へ。

ちよるも待っています」



# 第13回全国大会 共通論題・自由論題発表者募集

第13回全国大会を開催するにあたり、共通論題と自由論題を募集します。ご応募お待ちしております。

## 〈共通論題〉

- ・共通論題は企画された特定のテーマに関して2～4名のパネリストもしくは報告者による報告と対話で構成するものです。時間は原則2時間です。申し込みは、A4で1枚程度の企画書（共通論題テーマ案、司会者・報告者の候補者等を含めた企画案、申し込み代表者の氏名・現職・連絡先）を、**2013年12月末日（必着）までに学会事務局**にご提出ください。
- ・司会者及び申し込み代表者は学会会員に限りませんが、報告者のなかに学会会員以外を含めることができます。現在学会会員でない方は、申込みと同時に会員登録を行うことにより資格を得ることとします。

## 〈自由論題〉

- ・自由論題は原則として個人研究発表ですが、内容により複数の発表者による発表も可とします。いずれも発表時間は質疑応答も含めて30分とします。質疑応答の時間が十分とれるよう、発表時間の目安を20分程度としてください。
- ・応募は日本国際文化学会の会員に限りませんが、現在学会会員でない方は、申し込みと同時に会員登録を行うことにより資格を得るものとします。
- ・応募は、氏名・現職（大学教職員・有識者・企業や団体・研究所等の場合は所属と肩書き、大学院生・学生の場合は在籍課程などを明記）・連絡先・自由論題発表題目・キーワード（3～5語）を冒頭に記し、発表要旨（40字×25行以内）をつけて、**2014年3月末日（必着）までに学会事務局**にご提出ください。

## 〈共通論題・自由論題応募について〉

- ・それぞれ提出締切が異なっているのでご注意ください。
- ・応募先はいずれも学会事務局です。  
〒753-8502 山口県山口市桜島3-2-1  
山口県立大学国際文化学部事務室内 日本国際文化学会事務局  
e-mail: jsics@yamaguchi-pu.ac.jp
- ・応募いただいた場合、1週間以内を目途に受取確認メールをお送りします。受取確認メールが届かない場合は、お手数ですがご一報お願いいたします。
- ・応募いただいた共通論題については、2014年1月11日(土)開催の常任理事会で審議し、結果についてご連絡いたします。
- ・応募いただいた自由論題については、2014年4月初旬に開催する常任理事会で審議し、結果についてご連絡いたします。

## 〈山口県立大学へのアクセス〉

- ・航空機利用の場合：羽田 → 山口宇部空港、バスで新山口駅へ、J R山口線で宮野駅下車、徒歩3分。
- ・新幹線利用の場合：最寄駅から新山口駅へ、J R山口線で宮野駅下車、徒歩3分。  
アクセスルート、バスやJ R等の時刻表等についての詳細は、大会プログラム発表とともにお知らせいたします。

## 〈宿泊について〉

宿泊については山口駅周辺、あるいは、湯田温泉周辺のホテルを各自でご予約いただくことになります。

## 研究会開催のお知らせ

2つの研究会が開催されますので、ご案内いたします。

### 第20回研究会 「文化創成コーディネーター育成」に関する研究会のご案内

このたび、科研費助成研究「文化創成コーディネーター育成のためのカリキュラム開発に関する研究」に取り組むメンバーを中心として、研究会を催すことと致しました（共催：日本国際文化学会）。

本研究会では「社会で求められているコーディネーター像」と「既存の大学教育の中で実施できるカリキュラム」との間のギャップを浮き彫りにし、今後の問題点を提起できればと考えています。

特別にゲストスピーカーとして慶応義塾大学の早田吉伸氏にもお越しいただき、活発な意見交換の場になりたいと思います。ぜひお気軽にご参集のほど、お願い致します。

日 時：2013年12月7日(土) 15:30-17:30

会 場：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎3階F307教室

事前申し込み不要

プログラム：

第一部：研究グループメンバーによる発表

発表予定者（レポート発表含む）

木原誠、高橋良輔（佐賀大学）、岩野雅子、斉藤理（山口県立大学）、小笠原伸（白鷗大学）

第二部：早田吉伸氏による講演「地域振興と、必要とされる人材育成」（仮）

早田吉伸氏（慶応義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所 研究員）。佐賀県生まれ。大学卒業後、大手ITベンダー入社。パブリックセクター向け情報化プロジェクトに従事。地域情報化・電子政府・自治体におけるコンサルティング、事業計画・開発を担当する。2005年4月と2011年2月より内閣官房に出向、地域活性政策（地域再生・特区）、IT政策に従事。

第三部：パネルディスカッション

お問い合わせ：斉藤理（山口県立大学准教授） 〒753-8502 山口市桜島3-2-1

Tel：083-928-2527 e-mail：tsaito@yamaguchi-pu.ac.jp

### 第21回研究会 「クライストチャーチのための歌——ニュージーランドの震災に対する音楽の役割」のご案内

日 時：2013年12月16日(月) 18:30-20:30

テ ー マ：「クライストチャーチのための歌——ニュージーランドの震災に対する音楽の役割」

場 所：法政大学国際日本学研究所セミナー室（東京都千代田区富士見2-17-1）

講 演 者：シェリー・ブランド氏（ロイヤル・メルボルン工科大学）

司会及び討論者：鈴木裕輔（法政大学国際日本研究所）

内 容：2011年2月22日にニュージーランドで発生したクライストチャーチ地震を取り上げ、震災後に音楽家や音楽活動に従事する愛好家などがどのように被災者の支援に取り組んだか、また、震災からの復興に際して音楽がどのような役割を果たしたかが検討される。なお、ブランド氏はクライストチャーチ地震が発生した当時はオタゴ大学（ニュージーランド）に在職しており、自らも音楽を通じた復興活動に参画した。今回の講演は、ブランド氏自身の実践的な活動で得られた知見も紹介される予定である。

主 催：法政大学国際日本研究所

共 催：日本国際文化学会

お問い合わせ・お申し込み先：鈴木裕輔（法政大学国際日本学研究所）

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学国際日本学研究所

Tel：03-3264-9006 e-mail：yusuke.suzumura.65@hosei.ac.jp

参加費：無料

その他：講演及び質疑応答は英語で行われ、日本語に通訳される。

## 研究会追加募集のお知らせ

2013年10月19日(土)開催の常任理事会で、本年度開催の2件の研究会が承認されました(上記の紹介通り)が、以下の要領で追加募集をいたします。ぜひ研究会活動の企画運営にご活用ください。

- ・申請金額：10万円まで
- ・申請締め切り：2013年12月末日
- ・様式：学会ホームページよりダウンロードし、学会事務局宛に提出(メール添付あるいは郵送)。
- ・結果の通知：2014年1月11日(土)開催の常任理事会で決定し結果をお知らせします。
- ・研究会の実施期間：2014年7月5日(土)開催の学会前日まで。
- ・研究会実施については以下の3点を条件とします。
  - －共催として「日本国際文化学会」を明記する。
  - －学会メンバーの研究・交流・発信活動を支援するものとし、非学会員の講演等が主となるような場合は、そこに学会メンバーも参加をするプログラム(報告、対話、ラウンドテーブル方式による議論等、様式は自由)を用意する。
  - －開催前に国際文化学会ニューズレターおよびホームページの研究会開催コーナーにおいて周知することを了承いただき、また、開催後1か月以内に400～800字程度の報告書を提出し、これを学会ニューズレターおよびホームページで報告することとする。

## 第5回国際文化学関連学部・大学院等情報交換会のご案内 文化創成コーディネーター(Inter-cultural Coordinator)資格認定制度 に関する情報交換会を開催します

学会で歩みを進めてきた情報交換会も第5回目を迎えます。今回は昨年に引き続き、文化創成コーディネーター(Inter-cultural Coordinator)資格認定制度発足に向けた情報交換会とします。出口に関して間口を広くあけつつ、専門性を証明する資格の一つとして活用されるには、さらにどのような工夫が必要なのか。また、学生が応募しやすく、かつ、意義のある資格認定制度とするためには、様々な異なる大学・学部・研究科の諸事情をいかに拾い上げ、学会の行う教育プログラムとして意味あるものとするのか。これらについて情報交換を行い、学会の文化創成コーディネーター設置委員会の審議を重ねた上で、次回の総会にお諮りする予定です。

情報交換会は全国の国際文化学関連学部・研究科の学科長、学部長、研究科長に呼びかけを行い、2013年12月7日(土) 13:00-15:00、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎3階F307教室で開催します。

なお、当日の15:30-17:30には、「文化創成コーディネーター育成のためのカリキュラム開発に関する研究」をテーマとした研究会が同じ会場で開催されます。

会員の方々におかれましてもぜひ情報交換会へのご出席を、また研究会へのご参加をお待ちしております。

### 編集後記

京都の余韻を味わいつつ、次は西の京に思いをはせるという贅沢な時間を紙面にしてお届けします。山口県立大学の皆様に心から敬意を表します。「文化創成コーディネーター」をめぐって数年来蓄積してきた議論も徐々に収斂して、いま一気に大きなうねりとなって眼前に展開しています。国際文化学の新たな展望を切り開くこの機会を、多くの皆さんと共有できることを楽しみにしています。

(F K)